

時間割コード	774013	開講区分	第1学期
曜日・時間	水曜日・6時限		
開講科目名	母子保健・教育福祉論	定員	
開講科目名(英)	Maternal and Child Health, Education and Welfare	単位数	2単位
場 所	大阪校講義室、金沢校講義室、福井校講義室	年次	1年
担当教員	酒井規夫、山崎あけみ、服巻智子(大阪校)、河合隆平、熊崎博一(金沢校)、友田明美、川谷正男(福井校)	授業形態	講義(オムニバス方式)
講義題目	母子保健・教育福祉論		
開講言語	日本語		
授業の目的	子どものこころの健やかな成長を支える母子保健・福祉について、科学的な理解をはかると同時に、様々な障害や慢性疾患をもつ子どもの包括的な支援の考え方について、医療・看護・教育・福祉の理論と実践を基礎にしながら学ぶ。		
学習目標	子どものこころとからだの健康について、医療、看護、教育、福祉の面で理解することを目標とする。また、現代における問題点を知り、将来的な展望について考えることを目標に講義と自由発表を行う。		
授業計画	<p>(酒井規夫／2回)  子どもの権利にする歴史の変遷を通して、子どもの健康に関わる権利を守ることに於いて、医療、教育、福祉の果たす役割について概観し、現代における問題点として遺伝と教育の問題を取り上げる。</p> <p>(河合隆平／3回)  障害や発達困難のある場合を中心に、権利主体として子どもを捉えながら、教育と福祉分野における実践課題について整理する。発達・学習権保障をめぐる国際動向を概説し、現代の子どもの生活・発達危機と教育・福祉論の課題について言及する。</p> <p>(友田明美、川谷正男、熊崎博一／各1回)  母子保健領域を、小児科学、小児神経学、小児発達学の立場から縦横に論理を展開する。すなわち、小児科学では、子どものこころの問題について総論的な講義を行うとともに、親の支援にも触れる。小児神経学では発達障害の疫学、障害児を持つ兄弟への支援、ソーシャルサポート・パーソナリティ・認知パターンにも触れる。小児発達学では、虐待を通して社会における子どもの発育・発達の臨床的・社会医学的諸相について学習し、被養育体験と精神疾患や精神疾患発生に関する諸要因の相互関係、ライフステージ・ライフサイクル等にも触れる。</p> <p>(山崎あけみ／3回)  さまざまな健康問題を抱えた子どもの育児について、小児看護・家族看護の立場から、理論・アセスメント・実践の実際について解説する。</p> <p>(服巻智子／3回)  自閉スペクトラム症のためのエビデンスベーストプラクティスとベストプラクティス(TEACCH, ABA, NBT, ESDM, PECS, CBT, TF-CBT, PCIT 他)について3回の講義で解説する。  (自由レポート発表)  最後の1回で受講者に自由にテーマを決めてもらい、発表と意見交換をします。各自の興味を持っているテーマで自由に発表してください。</p> <p>第1回 (酒井)子どもの権利～児童権利宣言から50年の歩みと医療の進歩</p> <p>第2回 (酒井)子どもと遺伝～遺伝に対する考え方と遺伝カウンセリング</p> <p>第3回 (友田)子育て支援の意義～虐待で傷つく脳～</p> <p>第4回 (熊崎)小児の精神神経疾患と親への支援</p> <p>第5回 (川谷)発達障害と障害児を持つ兄弟への支援</p> <p>第6回 (河合)インクルーシブ教育と特別支援教育改革</p> <p>第7回 (河合)子ども・子育て支援新制度と障害児福祉</p> <p>第8回 (河合)子どもの貧困からみた発達保障の課題</p>		

	第9回 (服巻)エビデンスベースプラクティスとベストプラクティスの定義と検証
	第10回 (服巻)発達期に応じたベストプラクティス(1)乳児～学齢期
	第11回 (服巻)発達期に応じたベストプラクティス(2)進学・就労・恋愛・結婚支援と問題行動の対処
	第12回 (山崎)子どもを取り巻く日本の家族 ―現状と課題―
	第13回 (山崎)子どもの病気と入院が家族に及ぼす影響
	第14回 (山崎)病児とともに生きる家族のアセスメントの支援の実際
	第15回 自由テーマ発表
授業外における学習	・E-Learning 教材(授業動画)視聴などで Web 学習システム(CLE)を活用するので、各自利用方法に習熟しておくこと。
教科書・参考書等	
成績評価	出席 40%、講義中の小課題への取り組み 30%、認定課題へのレポート 30%
コメント	・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること